

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	徳山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械電気工学科			3	9	12	7	
	情報電子工学科			3	7	10	7	
	土木建築工学科			3	14	17	7	
	機械制御工学専攻			10	4	14	7	
	情報電子工学専攻			10	2	12	7	
	環境建設工学専攻			10	4	14	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 (https://www.tokuyama.ac.jp/other/disclosure.html 内, https://www.tokuyama.ac.jp/img/jitsumaichiran2024.pdf)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	徳山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/yakuin-20240401.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理工学府長・研究院長	2024年4月1日～2026年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～2026年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	徳山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)は、授業配置・担当教員が定まる、概ね12月後半から2月頃にかけて、各担当教員が作成している。</p> <p>設置者である独立行政法人国立高等専門学校機構が統一フォーマットとしてオンライン上に整備した「高専Webシラバス」において、各授業担当教員が、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、その他の事項を記載したシラバスを作成、公表している。</p> <p>なお、作成にあたっては、成績評価方法等が適切に設定されていることを教務主事室が中心となって確認している。</p> <p>新年度シラバスの公表は、新年度が始まる4月1日を基準としてホームページに掲載している。</p> <p>なお、「実務経験のある教員による授業科目」は、シラバスの教育方法等の項目にその旨が記載されている。</p>	
授業計画書の公表方法	ホームページにて公表(https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=35&lang=ja)
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)に記載された成績評価の方法・基準に基づき、各授業科目(卒業研究及び特別研究を含む)において厳格かつ適正に評価を行い、「徳山工業高等専門学校学則」、「徳山工業高等専門学校教務規則」又は「徳山工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」により進級・卒業・修了を認定している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>客観的な指標の設定について、本校では、各授業科目の評価(各科目100点満点で評価)の平均点を成績評価の指標としており、また学科・専攻ごとに平均点により上位から順位付けをし、成績通知表等をもって公表している。</p> <p>なお、成績の平均点とは、全科目の評価点の和を科目数で除して算出する。ただし、未履修となった科目はこれに含めない。</p> <p>これらの数値は、成績一覧表に出力され、担任や学科主任、教務委員等にも情報共有されている。これにより、成績の分布状況を把握し、学修指導を行っている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページにて公表 (https://www.tokuyama.ac.jp/other/disclosure.html)内、 (https://www.tokuyama.ac.jp/other/disclosure-sksihyo.html)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>・本科 「徳山工業高等専門学校学則」及び「徳山工業高等専門学校教務規則」に基づき、卒業認定会議において審議の上、卒業の認定を校長が行っている。</p> <p>・専攻科 「徳山工業高等専門学校学則」及び「徳山工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」により専攻科修了認定会議において審議の上、専攻科課程修了の認定を校長が行っている。</p> <p>また、卒業・修了の認定方針(ディプロマポリシー)を定め、所定の年限在籍し、能力を備え、各学科が規定する単位を修得したものに卒業及び修了を認定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>ホームページにて公表 (https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html)ほか</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	徳山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R4jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/kansaR4.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和6年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/r6-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/5th-keikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページ(https://www.tokuyama.ac.jp/edu/self-evaluation.html)
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:ホームページ(https://www.tokuyama.ac.jp/edu/gaibu-hyouka.html)
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械電気工学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/other/disclosure.html ）
（概要） 本校は建学の理念「技術を愛する人 信頼される人」に基づき、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者」（本科）、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」（専攻科）を育てます。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html ）
（概要） 本校では、下記の人材の育成を目的とします。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技能に加え、複合分野にわたる知識を有機的に結びつける能力を備え、各学科が規定する単位を修得したものに卒業を認定し準学士と称することを認め、各専攻が規定する単位を修得したものに修了を認定します。 【本 科】情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者 【専攻科】情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html ）
（概要） 本校では、卒業の認定に関する方針にて掲げた能力を育成するために、科目群を用意しています。 <全学科・専攻共通> 1. 基本的能力, 2. 専門的能力, 3. 汎用的技能, 4. 態度・志向性（人間力）, 5. 創造的思考力, 6. 異文化対応力, 7. 倫理的判断力 <機械電気工学科・機械制御工学専攻> 1) 機械工学・電気工学の基礎・応用科目群：いわゆる機械工学（材料力学, 水力学, 熱力学, 機械力学など）および電気工学（電気回路, 電子回路, 電磁気学など）を基盤とした基礎専門科目群および専攻科におけるそれらの応用・学際的科目群（ロボット制御工学, 応用計測工学など）を用意しています。 2) 実践的技術力の修得に関する科目群：実践的な工学実験, 工作実習, 設計製図（および専攻科における総合実験）などの実技科目を用意しています。 3) 課題解決能力・開発力の育成に関する科目群：創造演習・創造製作, 知的財産権, 卒業研究（および専攻科における総合演習, 応用研究, 特別研究）など, 課題解決能力, 応用力, 創造力, プロジェクトマネジメント力, チームワーク力, 表現力などの総合的能力を身につけるための科目を用意しています。 <成績評価及び単位認定基準> これらの科目に対する単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行います。 (1) 成績評価は、定期試験の成績, レポート等の課題, 履修状況等を総合して実施します。 (2) 成績は履修と認められた科目で 100 点法により採点し, 60 点以上の成績をもって所定の単位を認定します。 (3) 単位認定のための成績評価の評点区分(評語)は 4 段階です。 ※ GPA算出のための Grade Point (GP) は 5 段階です。

単位認定のための成績評価

最終成績(点)	評点区分(評語)
80～100	優
70～79	良
60～69	可
0～59	不可

GPA による区分

最終成績(点)	評語	Grade Point (GP)
90～100	A	4
80～89	B	3
70～79	C	2
60～69	D	1
0～59	F	0

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ
<https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html>）

（概要）

本校のアドミッションポリシーは、ディプロマポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものです。具体的には次のような人を求めています。

<本科入学者および編入学者に求める学生像>

本科（準学士課程）では、以下の素養を有する人を求めています。

- ・数学と理科の基礎学力が身につけている人
- ・信頼される技術者を目指し、コミュニケーション能力の基礎を身につけている人
- ・勉学や課外活動などに意欲を持って取り組んでいる人
- ・ものづくりが好きで社会の発展に役立ちたいと考えている人

<専攻科入学者に求める学生像>

専攻科では、次のような人を広く求めています。

- ・複合分野の基礎となる基本的素養が身につけている人
- ・コミュニケーション能力や倫理的判断能力が身につけている人
- ・実験・演習や卒業研究に意欲をもって取り組んでいる人
- ・ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えている人

<p>学部等名 情報電子工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/other/disclosure.html）</p>
<p>（概要） 本校は建学の理念「技術を愛する人 信頼される人」に基づき、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者」（本科）、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」（専攻科）を育てます。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html）</p>
<p>（概要） 本校では、下記の人材の育成を目的とします。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技能に加え、複合分野にわたる知識を有機的に結びつける能力を備え、各学科が規定する単位を修得したものに卒業を認定し準学士と称することを認め、各専攻が規定する単位を修得したものに修了を認定します。 【本科】 情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者 【専攻科】 情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html）</p>
<p>（概要） 本校では、卒業の認定に関する方針にて掲げた能力を育成するために、科目群を用意しています。</p> <p><全学科・専攻共通></p> <p>1. 基本的能力, 2. 専門的能力, 3. 汎用的技能, 4. 態度・志向性（人間力）, 5. 創造的思考力, 6. 異文化対応力, 7. 倫理的判断力</p> <p><情報電子工学科・情報電子工学専攻></p> <p>1) 電子・情報・通信工学の基礎・応用科目群:いわゆる情報工学(情報理論、コンピュータアーキテクチャ、プログラミングなど)および電気・電子工学(電磁気学、アナログ回路、デジタル回路など)を基盤とした基礎専門科目群および専攻科におけるそれらの応用・学際的科目群(メディア信号処理、半導体電子工学など)を用意しています。</p> <p>2) 実践的技術力の修得に関する科目群:実践的なプログラミング関連科目、電子工学実験、情報システム実験、電子通信システム実験(および専攻科における総合実験)などの実技科目を用意しています。</p> <p>3) 課題解決能力・開発力の育成に関する科目群:知的財産論、創造演習・創造製作、卒業研究(および専攻科における総合演習、応用研究、特別研究)などの、課題解決能力、応用力、創造力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力、表現力などの総合的能力を身につけるための科目を用意しています。</p> <p><成績評価及び単位認定基準></p> <p>これらの科目に対する単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行います。</p> <p>(1) 成績評価は、定期試験の成績、レポート等の課題、履修状況等を総合して実施します。</p> <p>(2) 成績は履修と認められた科目で100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。</p> <p>(3) 単位認定のための成績評価の評点区分(評語)は4段階です。</p> <p>※ GPA算出のための Grade Point (GP) は5段階です。</p>

単位認定のための成績評価

最終成績(点)	評点区分(評語)
80～100	優
70～79	良
60～69	可
0～59	不可

GPA による区分

最終成績(点)	評語	Grade Point (GP)
90～100	A	4
80～89	B	3
70～79	C	2
60～69	D	1
0～59	F	0

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ
<https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html>）

（概要）

本校のアドミッションポリシーは、ディプロマポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものです。具体的には次のような人を求めています。

<本科入学者および編入学者に求める学生像>

本科（準学士課程）では、以下の素養を有する人を求めています。

- ・数学と理科の基礎学力が身についている人
- ・信頼される技術者を目指し、コミュニケーション能力の基礎を身につけている人
- ・勉学や課外活動などに意欲を持って取り組んでいる人
- ・ものづくりが好きで社会の発展に役立ちたいと考えている人

<専攻科入学者に求める学生像>

専攻科では、次のような人を広く求めています。

- ・複合分野の基礎となる基本的素養が身についている人
- ・コミュニケーション能力や倫理的判断能力が身についている人
- ・実験・演習や卒業研究に意欲をもって取り組んでいる人
- ・ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えている人

<p>学部等名 土木建築工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/other/disclosure.html）</p>
<p>（概要） 本校は建学の理念「技術を愛する人 信頼される人」に基づき、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者」（本科）、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」（専攻科）を育てます。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html）</p>
<p>（概要） 本校では、下記の人材の育成を目的とします。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技能に加え、複合分野にわたる知識を有機的に結びつける能力を備え、各学科が規定する単位を修得したものに卒業を認定し準学士と称することを認め、各専攻が規定する単位を修得したものに修了を認定します。 【本科】 情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者 【専攻科】 情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html）</p>
<p>（概要） 本校では、卒業の認定に関する方針にて掲げた能力を育成するために、科目群を用意しています。</p> <p><全学科・専攻共通> 1. 基本的能力, 2. 専門的能力, 3. 汎用的技能, 4. 態度・志向性（人間力）, 5. 創造的思考力, 6. 異文化対応力, 7. 倫理的判断力</p> <p><土木建築工学科・環境建設工学専攻> 1) 土木工学・建築学の基礎・応用科目群:いわゆる土木工学(土木構造・材料学、水工学、地盤工学、測量学など)および建築学(建築構造・材料学、建築計画学、建築環境・設備学、都市計画学など)を基盤とした基礎専門科目群および専攻科におけるそれらの応用・学際的科目群(建設プログラミング、都市環境計画学など)を用意しています。 2) 実践的技術力の修得に関する科目群:実践的な工学デザイン、工学実験、測量実習、情報処理、CAD(および専攻科における総合実験)などの実技科目を用意しています。 3) 課題解決能力・開発力の育成に関する科目群:集中測量実習、創造演習、卒業研究(および専攻科における総合演習、応用研究、特別研究)などの、課題解決能力、応用力、創造力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力、表現力などの総合的能力を身につけるための科目を用意しています。</p> <p><成績評価及び単位認定基準> これらの科目に対する単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行います。 (1) 成績評価は、定期試験の成績、レポート等の課題、履修状況等を総合して実施します。 (2) 成績は履修と認められた科目で100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。 (3) 単位認定のための成績評価の評点区分(評語)は4段階です。 ※ GPA算出のための Grade Point (GP) は5段階です。</p>

単位認定のための成績評価

最終成績(点)	評点区分(評語)
80~100	優
70~79	良
60~69	可
0~59	不可

GPA による区分

最終成績(点)	評語	Grade Point (GP)
90~100	A	4
80~89	B	3
70~79	C	2
60~69	D	1
0~59	F	0

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ
<https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html>）

（概要）

本校のアドミッションポリシーは、ディプロマポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものです。具体的には次のような人を求めています。

<本科入学者および編入学者に求める学生像>

本科（準学士課程）では、以下の素養を有する人を求めています。

- ・数学と理科の基礎学力が身につけている人
- ・信頼される技術者を目指し、コミュニケーション能力の基礎を身につけている人
- ・勉学や課外活動などに意欲を持って取り組んでいる人
- ・ものづくりが好きで社会の発展に役立ちたいと考えている人

<専攻科入学者に求める学生像>

専攻科では、次のような人を広く求めています。

- ・複合分野の基礎となる基本的素養が身につけている人
- ・コミュニケーション能力や倫理的判断能力が身につけている人
- ・実験・演習や卒業研究に意欲をもって取り組んでいる人
- ・ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えている人

<p>学部等名 専攻科 機械制御工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/other/disclosure.html）</p>
<p>（概要） 本校は建学の理念「技術を愛する人 信頼される人」に基づき、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者」（本科）、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」（専攻科）を育てます。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html）</p>
<p>（概要） 本校では、下記の人材の育成を目的とします。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技能に加え、複合分野にわたる知識を有機的に結びつける能力を備え、各学科が規定する単位を修得したものに卒業を認定し準学士と称することを認め、各専攻が規定する単位を修得したものに修了を認定します。 【本科】 情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者 【専攻科】 情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html）</p>
<p>（概要） 本校では、卒業の認定に関する方針にて掲げた能力を育成するために、科目群を用意しています。</p> <p><全学科・専攻共通> 1. 基本的能力, 2. 専門的能力, 3. 汎用的技能, 4. 態度・志向性（人間力）, 5. 創造的思考力, 6. 異文化対応力, 7. 倫理的判断力</p> <p><機械電気工学科・機械制御工学専攻> 1) 機械工学・電気工学の基礎・応用科目群：いわゆる機械工学（材料力学、水力学、熱力学、機械力学など）および電気工学（電気回路、電子回路、電磁気学など）を基盤とした基礎専門科目群および専攻科におけるそれらの応用・学際的科目群（ロボット制御工学、応用計測工学など）を用意しています。 2) 実践的技術力の修得に関する科目群：実践的な工学実験、工作実習、設計製図（および専攻科における総合実験）などの実技科目を用意しています。 3) 課題解決能力・開発力の育成に関する科目群：創造演習・創造製作、知的財産権、卒業研究（および専攻科における総合演習、応用研究、特別研究）など、課題解決能力、応用力、創造力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力、表現力などの総合的能力を身につけるための科目を用意しています。</p> <p><成績評価及び単位認定基準> これらの科目に対する単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行います。 (1) 成績評価は、定期試験の成績、レポート等の課題、履修状況等を総合して実施します。 (2) 成績は履修と認められた科目で100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。 (3) 単位認定のための成績評価の評点区分（評語）は4段階です。 ※ GPA算出のための Grade Point (GP) は5段階です。</p>

単位認定のための成績評価

最終成績(点)	評点区分(評語)
80~100	優
70~79	良
60~69	可
0~59	不可

GPA による区分

最終成績(点)	評語	Grade Point (GP)
90~100	A	4
80~89	B	3
70~79	C	2
60~69	D	1
0~59	F	0

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ
<https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html>）

（概要）

本校のアドミッションポリシーは、ディプロマポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものです。具体的には次のような人を求めています。

<本科入学者および編入学者に求める学生像>

本科（準学士課程）では、以下の素養を有する人を求めています。

- ・数学と理科の基礎学力が身につけている人
- ・信頼される技術者を目指し、コミュニケーション能力の基礎を身につけている人
- ・勉学や課外活動などに意欲を持って取り組んでいる人
- ・ものづくりが好きで社会の発展に役立ちたいと考えている人

<専攻科入学者に求める学生像>

専攻科では、次のような人を広く求めています。

- ・複合分野の基礎となる基本的素養が身につけている人
- ・コミュニケーション能力や倫理的判断能力が身につけている人
- ・実験・演習や卒業研究に意欲をもって取り組んでいる人
- ・ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えている人

<p>学部等名 専攻科 情報電子工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/other/disclosure.html）</p>
<p>（概要） 本校は建学の理念「技術を愛する人 信頼される人」に基づき、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者」（本科）、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」（専攻科）を育てます。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html）</p>
<p>（概要） 本校では、下記の人材の育成を目的とします。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技能に加え、複合分野にわたる知識を有機的に結びつける能力を備え、各学科が規定する単位を修得したものに卒業を認定し準学士と称することを認め、各専攻が規定する単位を修得したものに修了を認定します。 【本科】 情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者 【専攻科】 情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html）</p>
<p>（概要） 本校では、卒業の認定に関する方針にて掲げた能力を育成するために、科目群を用意しています。</p> <p><全学科・専攻共通> 1. 基本的能力, 2. 専門的能力, 3. 汎用的技能, 4. 態度・志向性（人間力）, 5. 創造的思考力, 6. 異文化対応力, 7. 倫理的判断力</p> <p><情報電子工学科・情報電子工学専攻> 1) 電子・情報・通信工学の基礎・応用科目群:いわゆる情報工学(情報理論、コンピュータアーキテクチャ、プログラミングなど)および電気・電子工学(電磁気学、アナログ回路、デジタル回路など)を基盤とした基礎専門科目群および専攻科におけるそれらの応用・学際的科目群(メディア信号処理、半導体電子工学など)を用意しています。 2) 実践的技術力の修得に関する科目群:実践的なプログラミング関連科目、電子工学実験、情報システム実験、電子通信システム実験(および専攻科における総合実験)などの実技科目を用意しています。 3) 課題解決能力・開発力の育成に関する科目群:知的財産論、創造演習・創造製作、卒業研究(および専攻科における総合演習、応用研究、特別研究)などの、課題解決能力、応用力、創造力、プロジェクトマネージメント力、チームワーク力、表現力などの総合的能力を身につけるための科目を用意しています。</p> <p><成績評価及び単位認定基準> これらの科目に対する単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行います。 (1) 成績評価は、定期試験の成績、レポート等の課題、履修状況等を総合して実施します。 (2) 成績は履修と認められた科目で100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。 (3) 単位認定のための成績評価の評点区分(評語)は4段階です。 ※ GPA算出のための Grade Point (GP) は5段階です。</p>

単位認定のための成績評価

最終成績(点)	評点区分(評語)
80～100	優
70～79	良
60～69	可
0～59	不可

GPA による区分

最終成績(点)	評語	Grade Point (GP)
90～100	A	4
80～89	B	3
70～79	C	2
60～69	D	1
0～59	F	0

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ
<https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html>）

（概要）

本校のアドミッションポリシーは、ディプロマポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものです。具体的には次のような人を求めています。

<本科入学者および編入学者に求める学生像>

本科（準学士課程）では、以下の素養を有する人を求めています。

- ・数学と理科の基礎学力が身についている人
- ・信頼される技術者を目指し、コミュニケーション能力の基礎を身につけている人
- ・勉学や課外活動などに意欲を持って取り組んでいる人
- ・ものづくりが好きで社会の発展に役立ちたいと考えている人

<専攻科入学者に求める学生像>

専攻科では、次のような人を広く求めています。

- ・複合分野の基礎となる基本的素養が身についている人
- ・コミュニケーション能力や倫理的判断能力が身についている人
- ・実験・演習や卒業研究に意欲をもって取り組んでいる人
- ・ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えている人

<p>学部等名 専攻科 環境建設工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/other/disclosure.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>本校は建学の理念「技術を愛する人 信頼される人」に基づき、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者」（本科）、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」（専攻科）を育てます。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>本校では、下記の人材の育成を目的とします。所定の年限在籍し、以下に示す能力・技能に加え、複合分野にわたる知識を有機的に結びつける能力を備え、各学科が規定する単位を修得したものに卒業を認定し準学士と称することを認め、各専攻が規定する単位を修得したものに修了を認定します。</p> <p>【本 科】情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者</p> <p>【専攻科】情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>本校では、卒業の認定に関する方針にて掲げた能力を育成するために、科目群を用意しています。</p> <p><全学科・専攻共通></p> <p>1. 基本的能力, 2. 専門的能力, 3. 汎用的技能, 4. 態度・志向性（人間力）, 5. 創造的思考力, 6. 異文化対応力, 7. 倫理的判断力</p> <p><土木建築工学科・環境建設工学専攻></p> <p>1) 土木工学・建築学の基礎・応用科目群:いわゆる土木工学(土木構造・材料学、水工学、地盤工学、測量学など)および建築学(建築構造・材料学、建築計画学、建築環境・設備学、都市計画学など)を基盤とした基礎専門科目群および専攻科におけるそれらの応用・学際的科目群(建設プログラミング、都市環境計画学など)を用意しています。</p> <p>2) 実践的技術力の修得に関する科目群:実践的な工学デザイン、工学実験、測量実習、情報処理、CAD(および専攻科における総合実験)などの実技科目を用意しています。</p> <p>3) 課題解決能力・開発力の育成に関する科目群:集中測量実習、創造演習、卒業研究(および専攻科における総合演習、応用研究、特別研究)などの、課題解決能力、応用力、創造力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力、表現力などの総合的能力を身につけるための科目を用意しています。</p> <p><成績評価及び単位認定基準></p> <p>これらの科目に対する単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行います。</p> <p>(1) 成績評価は、定期試験の成績、レポート等の課題、履修状況等を総合して実施します。</p> <p>(2) 成績は履修と認められた科目で100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。</p> <p>(3) 単位認定のための成績評価の評点区分(評語)は4段階です。</p> <p>※ GPA算出のための Grade Point (GP) は5段階です。</p>

単位認定のための成績評価

最終成績(点)	評点区分(評語)
80～100	優
70～79	良
60～69	可
0～59	不可

GPA による区分

最終成績(点)	評語	Grade Point (GP)
90～100	A	4
80～89	B	3
70～79	C	2
60～69	D	1
0～59	F	0

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ
<https://www.tokuyama.ac.jp/school/whats/policy.html>）

（概要）

本校のアドミッションポリシーは、ディプロマポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものです。具体的には次のような人を求めています。

<本科入学者および編入学者に求める学生像>

本科（準学士課程）では、以下の素養を有する人を求めています。

- ・数学と理科の基礎学力が身につけている人
- ・信頼される技術者を目指し、コミュニケーション能力の基礎を身につけている人
- ・勉学や課外活動などに意欲を持って取り組んでいる人
- ・ものづくりが好きで社会の発展に役立ちたいと考えている人

<専攻科入学者に求める学生像>

専攻科では、次のような人を広く求めています。

- ・複合分野の基礎となる基本的素養が身につけている人
- ・コミュニケーション能力や倫理的判断能力が身につけている人
- ・実験・演習や卒業研究に意欲をもって取り組んでいる人
- ・ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えている人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ（<https://www.tokuyama.ac.jp/school/info/soshiki.html>）

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
一般科目	—	2人	8人	0人	6人	0人	16人
機械電気工学科	—	4人	7人	0人	0人	0人	11人
情報電子工学科	—	6人	4人	0人	2人	0人	12人
土木建築工学科	—	5人	7人	0人	2人	0人	14人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		35人					35人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：ホームページ https://www.tokuyama.ac.jp/search/teacher.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
「徳山工業高等専門学校教育力向上FDプログラム」により，計画的に実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械電気工学科	40人	40人	100.0%	200人	209人	104.5%	若干名	1人
情報電子工学科	40人	40人	100.0%	200人	196人	98.0%	若干名	3人
土木建築工学科	40人	42人	105.0%	200人	221人	110.5%	若干名	4人
合計	120人	122人	101.7%	600人	626人	104.3%	人	8人
機械制御工学専攻	4人	4人	100.0%	8人	10人	125.0%	0人	0人
情報電子工学専攻	4人	7人	175.0%	8人	12人	150.0%	0人	0人
環境建設工学専攻	4人	6人	150.0%	8人	14人	175.0%	0人	0人
合計	12人	17人	141.7%	24人	36人	150.0%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械電気工学科	45人 (100%)	13人 (28.9%)	31人 (68.9%)	1人 (2.2%)
情報電子工学科	49人 (100%)	18人 (36.7%)	29人 (59.2%)	2人 (4.1%)
土木建築工学科	44人 (100%)	11人 (25.0%)	32人 (72.7%)	1人 (2.3%)
合計	138人 (100%)	42人 (30.4%)	92人 (66.7%)	4人 (2.9%)
機械制御工学専攻	7人 (100%)	3人 (42.9%)	4人 (57.1%)	0人 (0%)
情報電子工学専攻	5人 (100%)	2人 (40.0%)	3人 (60.0%)	0人 (0%)
環境建設工学専攻	8人 (100%)	2人 (25.0%)	6人 (75.0%)	0人 (0%)
合計	20人 (100%)	7人 (35.0%)	13人 (65.0%)	0人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画書（シラバス）は、授業配置・担当教員が定まる、概ね12月後半から2月頃にかけて、各担当教員が作成している。</p> <p>設置者である独立行政法人国立高等専門学校機構が統一フォーマットとしてオンライン上に整備した「高専 Web シラバス」において、各授業担当教員が、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、その他の事項を記載したシラバスを作成、公表している。</p> <p>なお、作成にあたっては、成績評価方法等が適切に設定されていることを教務主事室が中心となって確認している。</p> <p>新年度シラバスの公表は、新年度が始まる4月1日を基準としてホームページに掲載している。</p> <p>また、「実務経験のある教員による授業科目」は、シラバスの教育方法等の項目にその旨が記載されている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画書（シラバス）に記載された成績評価の方法・基準及び出席状況に基づき、各授業科目（卒業研究及び特別研究を含む）において評価を行い、「徳山工業高等専門学校学則」、「徳山工業高等専門学校教務規則」又は「徳山工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」により進級・卒業・修了を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械電気工学科	167 単位	有・無	単位
	情報電子工学科	167 単位	有・無	単位
	土木建築工学科	167 単位	有・無	単位
	機械制御工学専攻	66 単位	有・無	単位
	情報電子工学専攻	66 単位	有・無	単位
	環境建設工学専攻	66 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：ホームページ (https://www.tokuyama.ac.jp/school/campusmap.html)</p>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械電気工学科 情報電子工学科 土木建築工学科	234,600 円	84,600 円	91,695～ 109,565 円	(内訳) (注) 日本スポーツ振興センター掛金 (年額) 1,550 円 学生会入会金 1,000 円 学生会費 (年額) 4,000 円 英語能力検定テスト検定料 (年額) 2,350 円 教科書等教材 機械電気工学科 97,465 円 情報電子工学科 82,795 円 土木建築工学科 85,215 円 (パソコン等, BYOD デバイスは上記含んでいません) 入寮費 1,000 円 寄宿料 (年額) 8,400～9,600 円 寮生会費 (年額) 1,500 円 ※入寮費, 寄宿料, 寮生会費は入寮者のみ ※上記に, 食費・光熱水費・空調維持管理費を含まない
	機械制御工学専攻 情報電子工学専攻 環境建設工学専攻	234,600 円	84,600 円	5,830～ 16,930 円	(内訳) (注) 日本スポーツ振興センター掛金 (年額) 1,550 円 TOEIC IP テスト検定料 (年額) 3,280 円 入寮費 1,000 円 寄宿料 (年額) 8,400～9,600 円 寮生会費 (年額) 1,500 円 ※入寮費, 寄宿料, 寮生会費は入寮者のみ ※上記に, 食費・光熱水費・空調維持管理費を含まない

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 入学前指導 (就学指導説明会 3 月) に始まり, 担任制による日々の生活のサポート・指導を行っている。また, オフィスアワーの設置や, 一部教科では, 1 年次に「教科演習」として, 専攻科生を TA として補講を行うなど, 放課後の補習を行っているほか, 資格取得や各種コンテスト・コンペティション参加への推奨等を通して, 学生たちが充実した学びを得られるよう体制を整えている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア教育・学習支援室を設置し, 低学年から専攻科まで一貫したキャリア教育支援プログラムに基づく継続的なキャリア教育支援を行い, キャリア形成とキャリアプラン実現のためのサポート体制の充実・強化を図ることにより, 進路選択に係る支援の体制を整えている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) メンタルヘルスケアに対して, 学生相談室を設置, 相談員を配置している。また, 非常勤のカウンセラー・ソーシャルワーカーに定期的に勤務いただき, カウンセリングを行っている。また, 学生同士のサポートとして, クラス委員でピア・サポーターを任命し, 活動させる制度を導入している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法: ホームページ (https://www.tokuyama.ac.jp/other/disclosure.html)
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	G135110110203
学校名 (〇〇大学 等)	徳山工業高等専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		26人	25人	27人
内 訳	第Ⅰ区分	13人	14人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				27人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	-
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計		0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	-	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。